

台 燈



三池労働者運動に学ぶ

年頭に『共産党宣言』を読み進めています。あらため

て唯物史観が混迷する社会であるからこそ重要だと思われました。この社会を読み解くとき、それなくして労働者が歴史の大道を歩むことはできない、そのように教えられました。労働大学が「労働者が社会の主人公」であると規定し、運動を進めてきた正しさを、マルクス・エンゲルスの歴史的労作から学びました。プロレタリアートが社会を変え得る、歴史の中で「誇り高き」地位にあるということ、これが冒頭の宣言で確認できました。

労働者にとって困難ではない時期はありません。敵の攻撃が熾烈を極めているか、少し手を緩める余裕があるかの違いはありますが、賃金奴隷の状態から抜け出せないのが資本主義社会です。しかし、私たちは大きな教訓を歴史的に経験してきました。それが三池労働者に一貫

して貰かれた労働者運動です。

私は、新自由主義が労働者の人間性をここまで貶めてくる状況を跳ね返していくときの覚悟を労働者がどのようにしてつかむのか、それを三池労組と主婦会の「生活革命」から学んでいます。学習と共に労働者の誇りがそれを成し遂げた、そう思っています。「闘い、学ぶ」三池労働者は「すべての階級闘争は政治闘争である」ということを身を以て経験し、実践してきました。来る参議院選挙では、憲法を改悪させないという重要な闘いがあります。今から闘いを準備し、自公政権の横暴を許さない体制を追求していきましょう。

今後厳しさを増す資本主義社会とそれを打ち倒す知恵を三池の労働者運動から再度学び、歴史を変え得る主体に成長していこうではありませんか。



労働大学副学長 市原 芳樹